

## 心豊かに生き生きと活動する子をめざして

～ 心の居場所を基盤とした課題解決学習 ～

能登町立松波小学校

### 1 事例の概要

平成13年度より続いている「心の居場所づくりの研究における『カウンセリングマインドを生かしたかした学校づくり』」を基盤とし、これによって形成される望ましい人間関係を生かしながら、課題解決学習に組織的に取り組み、確かな学力を育むことをねらった。つまり、児童自らが課題とその解決の方策を見つけることにより、学習意欲を高め、学習を進める中で思考力や判断力を培い、解決の過程における意見交換や学習の成果を発表する際の表現力を伸ばそうという意図である。また、これまで取り組んできた知識や技能についても、確実な定着を図ると共に、少人数授業やTTの活用など個に応じたきめ細かな指導の工夫改善にも取り組んだ。

#### A-1 リーフレット

### 2 実践内容

#### (1) 授業づくりに関する取り組み

##### ① 児童の意欲が継続する課題解決学習の単元計画

「単元を通して子ども達の意識をどう結びつけていくのか」に取り組んだ。単元との出会いの「つかむ」段階を重視し、単元の見通しを持ちながら次の時間を楽しみに待つ授業をめざした。

##### ② 主体性を育む学習過程を工夫

自ら課題を見つけたり、課題をつくったり、課題を発展させたりしていけるように、課題提示の工夫・練り上げの工夫・ふり返りの工夫等の細かいステップを設けて指導するようにした。

##### ③ カウンセリングマインドを生かした支援

カウンセリングマインドの視点を授業の中に取り入れ、指導案に具体的に表記し支援を行ってきた。「視点1…子どもと教師、子どもどうしがお互いのよさを認め合い、互いに尊重できるようにすること。」「視点2…教師が子どもの考えや判断を大切にし、それを生かす場をあたえること。」「視点3…子どもが自分は役立っていると感じられる体験をすること。」

##### ④ 授業分析を取り入れた指導法の工夫・改善

自己評価・相互評価を活性化させ、指導法の工夫・改善を図っている。課題解決学習の授業構成の6点について分析し、数値化を図っている。

##### ⑤ 適切なコース選択と課題に応じた指導形態

3・5・6年の算数科では、習熟度別少人数指導を中心にしながら、課題別による少人数指導も適宜取り入れ、主体的な活動や意欲を育む単元全体を見通した課題づくりを行ってきた。

##### ⑥ 漢字・計算の取り組み

朝自習で毎日行っている。また、百マス強化週間を学期に1回設けたり、チャレンジ漢字・計算テスト（9月・1月）を実施したりして、計算力の向上を図っている。

#### (2) 不易な生活習慣の徹底と認め合う仲間づくりに関する取り組み

共に高めあう学級づくりを目指している。5月に生活アンケートを実施し、基本的な生活習慣について自ら考える児童を育成した。また、構成的グループエンカウンターを取り入れた活動や縦割り班活動を生かした仲間づくり、PTA主催のなかよし学校等を行っている。

#### B-1 単元計画・学習過程

#### B-2 分析シート

### 3 指導の実際（4年算数科 変わり方を見やすく表そう）

課題を明確にし、練り上げの段階では、児童が思考し判断する場面が随所に見られた。

過程	学習内容・児童の意識の流れ	支援○ 評価◎
つかむ	1 いろいろなグラフ用紙を使って「珠洲市の気温」の折れ線グラフをかく。	○早くかけた児童のために、複数のグラフ用紙を準備する。
考える	2 変わり方が分かりやすい折れ線グラフについて考える。 ・小さいと書くのが大変だ。 ・たてに大きいと、下があいていて紙が無駄だ。 ・横に長いと変わり方が分かりにくい。 ・たてに大きい方が変わり方が分かりやすい。	・発表しやすいように実物投影機を用いる。  ・ネームプレートを使ってどのグラフ用紙でかいたか分かるようにする。
深める	3 波線で目盛りを省略した折れ線グラフに表す。 ・さっきより書きやすい。 ・変わり方が分かりやすい。	◎目盛りに波線を用いた折れ線グラフのかき方を理解している。(ノート)
まとめる	4 グラフを比べて、波線の効果やよさを考える。 ・波線がある方が見やすい。 ・間隔があくので変わり方がわかりやすい。	○データの入っているところには波線をかけないことを確認する。

#### C-1 指導の流れ

#### C-2 授業実践記録

### 4 成果と課題

#### 授業づくりに関する取り組み

- ① 「ストーリー性のある課題づくり」「ゲームからの課題づくり」「資料を切り口としての課題づくり」等の実践があった。しかし、子どもの思考が流れるような単元計画については、子どもの思いや思考の流れを貫くという点、課題を自ら作るという点で、まだまだ不十分であるととらえている。次年度は、自ら課題を見つけたり、作ったりする単元計画の改善について深めていきたいと考えている。
- ② 課題解決学習の授業構成に全職員が取り組み、授業改善を図ってきた。年4回の授業研究の第1回目を5月に立ち上げ、全員が授業を行った。又、子どもの願いや思考にそった課題の設定や課題解決学習過程の授業構成は、学びの質を向上させている。学びの過程分析表に見る子どもの意欲・表現力・思考・判断力は富に向上している。
- ③ 単元を通した活動や1時間の展開の中に「視点1…自己肯定」「視点2…自己決定」「視点3…自己貢献感」の場を取り入れた試みによって、子ども達の意欲づくりと成就感を向上させることができた。
- ④ 教師が変わりつつある。分析結果をもとにふり返り、授業の工夫・改善に向けて取り組みを進めることができたのは大きな成果である。
- ⑤ 校内研修に加え、『きめ細かな指導推進協議会』での授業公開を5回行い、外部からの評価を積極的に仰いできた。課題別による少人数指導を多く取り入れ、意欲づくりを図ってきた。
- ⑥ 9月のチャレンジ漢字・計算テスト(90点以上)の合格者は、95%で、昨年を大きく上回る成果を上げている。不易な生活習慣の徹底については、今後一人一人の伸びを見ていく方針である。

#### D-1 分析結果